

令和7年度 大学卒業程度（特別募集）
第1次試験（論文課題）

試験区分	行政 警察 教育	事務 事務
------	----------------	----------

地方創生2.0基本構想では、「人口減少が進む中でも、地域に生きる人々の不安を解消することで、新たなチャレンジや自己実現を図るための基盤を形成することができる。これらの取組の結果、多様で豊かな地域コミュニティの形成が図られ、地方に新たな魅力と活力をもたらし、一層豊かな生活環境の創生につながっていく。」とされています。

そこで、本県のような地方において豊かな生活環境の創生につなげていくために、県の職員として、どの分野でどのように職務に取り組んでいきたいですか。その分野を選んだ理由とあわせて、あなたの考えを述べてください。

試験区分	建 築
------	--------

大阪・関西万博の日本館では、再利用可能な建築資材としてCLT（直交集成材）が使用されました。万博閉幕後、事前に活用計画が採用された団体が、この資材を再利用することができます。

仮に高知県で再利用が可能な場合、CLTの特性を生かした効果的な活用方法を、地域の特性や課題を踏まえて提案してください。

令和7年度 大学卒業程度（特別募集）
第1次試験（論文課題）

試験区分	農 業
------	-----

高知県は、世界一の施設園芸技術を持つオランダ・ウェストラント市と、2009年11月に「友好園芸農業協定」を締結し、交流を深めることで、天敵昆虫を活用したIPM技術や環境制御技術の導入、次世代型ハウスの整備など、本県施設園芸の発展につなげてきました。

2025年9月には、大阪・関西万博で開催されたオランダ主催のイベントにおいて、施設園芸の魅力の探求や多様な担い手の確保、ロボティクスなどの先端技術の交流などを新たに協定書に追加し、再調印を行ったところで、さらに交流を深めることで、本県施設園芸の持続可能な未来につなげていきたいと考えています。

そこで、本県施設園芸の未来像をイメージし、それに向けて、どのようなことに取り組んでいくべきか、あなたの考えを述べてください。

試験区分	林 業
------	-----

人工林の多くが本格的な利用期を迎えている我が国において、森林の有する多面的機能を適切に発揮していくためには、間伐や主伐後の再生林等の森林整備を確実に行うことが重要となります。

しかしながら我が国の森林は、所有構造が小規模零細かつ分散的であり、また、森林所有者の高齢化や相続による世代交代・不在村化等により、所有者の特定や境界の明確化が難しいケースが見られるなど、効率的な森林整備が進みにくい状況にあります。

そこで、こうした状況に対応し、持続的な森林整備を進めていくために、どのように取り組むべきか、あなたの考えを述べてください。

令和7年度 大学卒業程度（特別募集）
第1次試験（論文課題）

試験区分	水産
------	----

生産量の減少や担い手不足等、厳しい現状に直面している水産業を成長産業に変えていくためには、水産資源を適切に管理していくことに加えて、近年、技術革新が著しいICT、IoT、AI等のデジタル技術やドローン、ロボット等の技術を漁業・養殖業の現場で活用する「スマート水産業」を推進することが重要です。

そこで、高知県の水産業の現状を踏まえ、どのように「スマート水産業」の導入・普及を進めていくべきか、具体例を挙げながら、あなたの考えを述べてください。

試験区分	電気
------	----

近年、地球温暖化による海水温上昇により台風の規模が大型化し、自然災害により送電設備や発電所が被害を受けて、広範囲で停電が発生し、それに伴う復旧作業が地形やアクセスの要因で長期化することが懸念されています。

そこで、重要施設である高圧受電設備の保安担当者として、外的要因による停電など不測の事態に際し、事前に準備すべきこと、事後において取るべき対策などについて、あなたの考えを述べてください。

令和7年度 大学卒業程度（特別募集）
第1次試験（論文課題）

試験区分	農芸化学 (衛生・食品)
------	-----------------

高知県における食品衛生監視員の業務の一つに、食品による健康危害から県民を守ることがあり、県では、日頃から食品衛生知識等の普及啓発に努めています。

下に示す最近の食品衛生の話題から一つ選び、現状と課題を述べたうえで、課題を解決するための具体的な取組について、あなたの考えを述べてください。

- ① ナッツアレルギー
- ② カンピロバクター食中毒
- ③ 食肉の低温調理

試験区分	社会福祉 (児童福祉)
------	----------------

家庭養育優先が原則となっている中、何らかの理由で家庭での養育とならず社会的養護（児童養護施設や里親など）で生活している子どもは、全国で約4万2千人いる現状です。家庭復帰に向けた取組を行っているが家庭復帰とはならず施設等から自立しなければならないケースが多い状況となっています。

保護者はいるが社会的養護で生活している子どもが家庭復帰するための課題や問題を整理したうえで、どういった取組が効果的か、あなたの考えを述べてください。